



Creative Application A24

メディア実装の勘所5

長く在る「メディア・インフラストラクチャ」

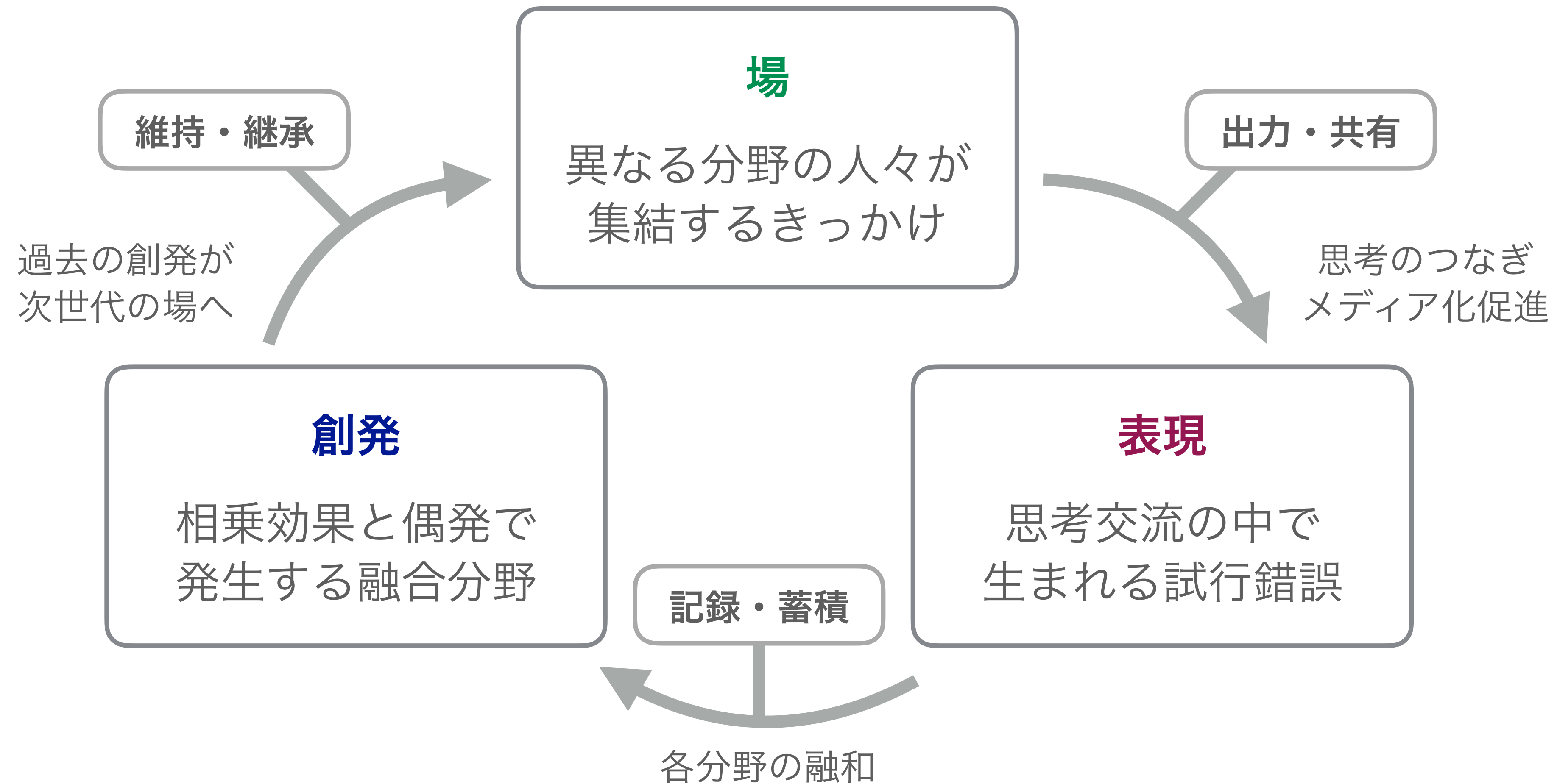
2025年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

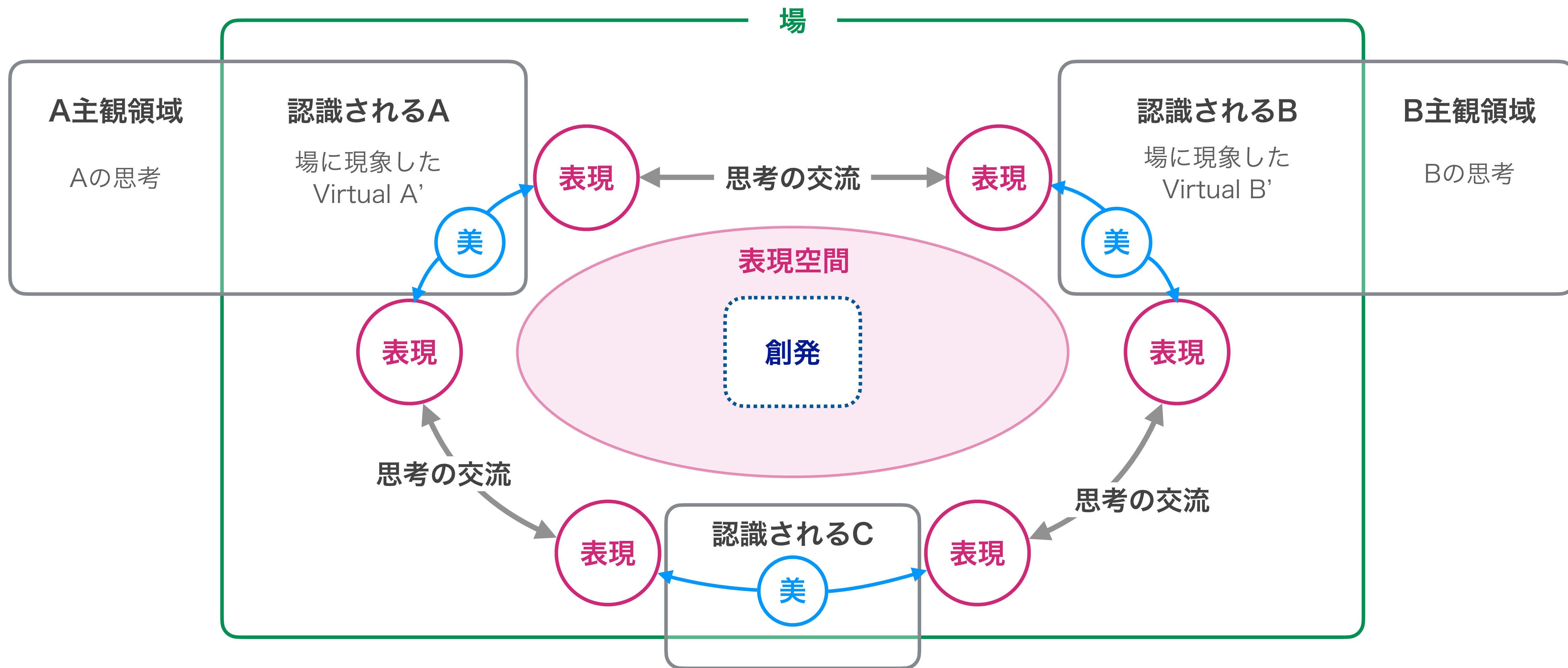
本日のテーマ

- ▶ **社会に溶け込んだ「当たり前メディア」**

[A04+] メディア・サイクル



[A12] メディア・モデル



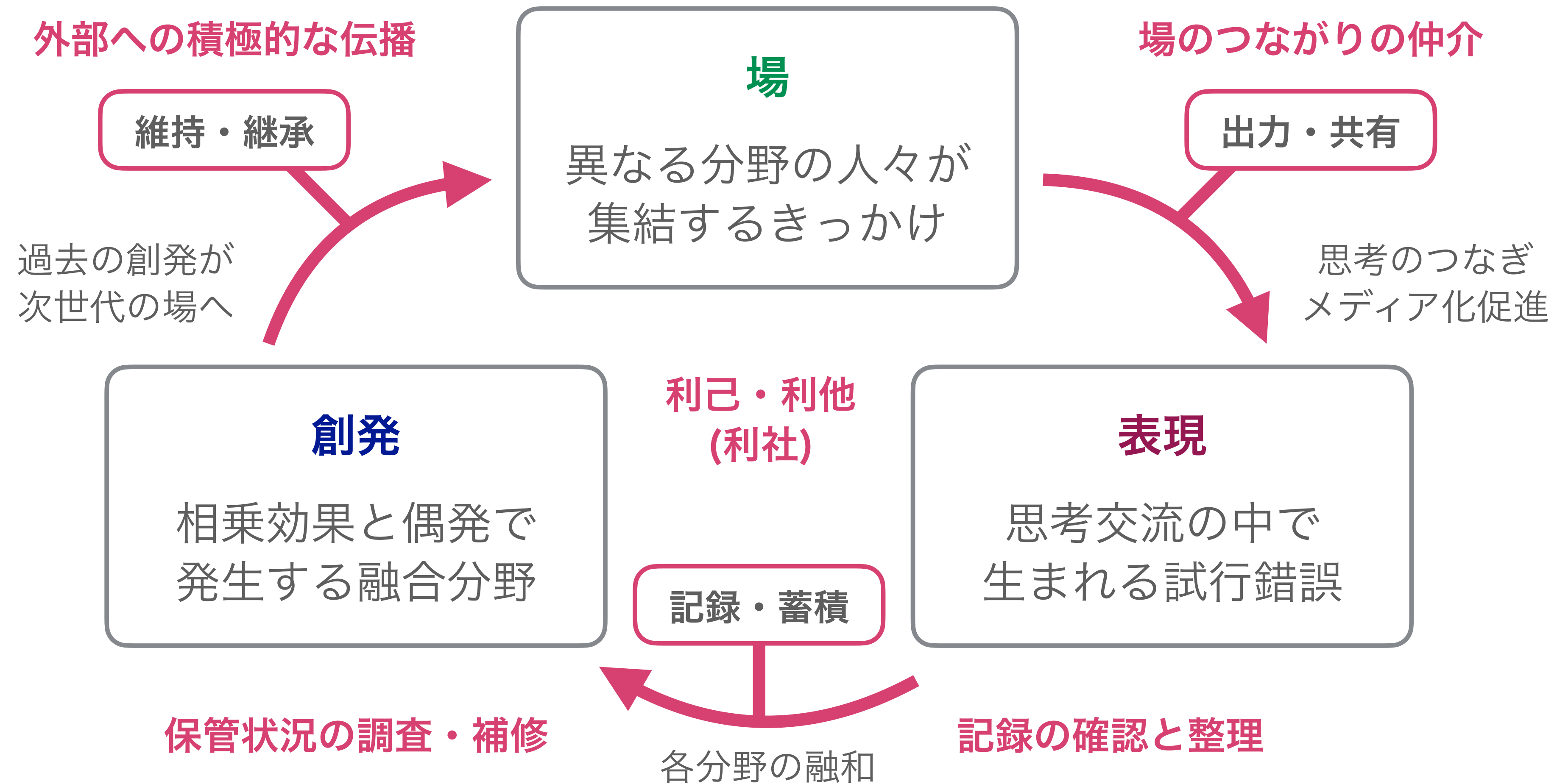
インフラストラクチャ1 - 定義

- ▶ 下支えするもの, 福祉・経済・社会に必要な公共施設, 社会基盤
 - ▶ 無意識に溶け込んだ**水, 電気, ガス, 道路, 交通, 流通**…
- ▶ **メディア・インフラストラクチャ**
 - ▶ **メディア実装を持続的に駆動させ, 社会公益を維持する工夫や仕組み**
 - ▶ 社会基盤にメディアの場や表現を溶け込ませ, 実装と効能を維持する
 - ▶ 広く普及しているメディアの場の例
 - ▶ 例: 新聞, テレビ, インターネット, 各種リモートサービス…

インフラストラクチャ2 - 継続するメディア実装

- ▶ メディア・サイクルの点検と更新 - 場と表現のフレキシビリティ
 - ▶ メディア実装を守るには, 場の**物理的・形式的なこだわりは重要ではない**
 - ▶ 場や表現の在り方はどんどん変化してもよい → **交流と試行錯誤を維持できることが重要**
- ▶ メディア・インフラストラクチャの指標
 - ▶ **閲覧性, 情報量, 更新度, アーカイブ頑健性, 場で醸成した文化の尊重**
 - ▶ 場の人口, 交流頻度, 表現頻度, 人的/空間的/時間的流動性, 記録量, 品質保持
 - ▶ **有意義な期限付きメディア実装もあることに留意.** インフラ化すべきか否かの判断も肝要
- ▶ **いざ社会で必要となった時, その実装との接点(メディア)が失われていることがないように**

メディア・サイクルとインフラストラクチャ



まとめ

- ▶ メディア実装を「将来の当たり前のもの」とするには？
- ▶ 美の喚起が自己への溶け込み [A23] であるなら, メディア・インフラは社会への溶け込みである
- ▶ **メディア・インフラストラクチャ**
 - ▶ メディア実装を持続的なものとするためにメディア・サイクルを定期的に点検する
 - ▶ 場や表現の在り方は変わっても良い, メディア実装の意義を守る点に注力する
 - ▶ 利己, 利他の並立による社会利益を目指す (渋沢栄一の経済道德合一説に通ずる?)
- ▶ メディア実装としては…
 - ▶ インフラ化のための努力は直接には他者利益だが, 間接的に社会利益として自分に還ってくる
 - ▶ **メディア実装には時間を経ることで効用が拡大するものがある.** 積極的な維持の意識はメディア実装に適う

本日の談義・考察一助

- a. メディア・インフラ化が必要な例と不要な例を挙げてほしい
- b. 時間が経過すると効果が大きくなるメディアの事例を挙げてほしい
- c. 渋沢栄一の経済道徳同一説との関係性を議論・検討してみたい

次回予定

メディア実装の実践1

メディア場 - 交流・企画・設計

参考文献

1. 藤田一照, 「アップデートする仏教」, 幻冬舎, 2013
2. 藤田一照, 永井均, 山下良道, 「仏教3.0を哲学する」, 春秋社, 2016
3. 飲茶, 「史上最強の哲学入門」, 河出文庫, 2015
4. 飲茶, 「史上最強の哲学入門 東洋の哲人たち」, 河出文庫, 2016
5. 森田真生, 「数学する身体」, 新潮社, 2018
6. 西田幾多郎, 「善の研究」, 青空文庫, 1979
7. 藤田正勝, 「日本哲学史」, 昭和堂, 2018井筒 俊彦, 「イスラーム文化 - その根底にあるもの」, 岩波書店, 1991
8. 竹田青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
9. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
10. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
11. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018
12. アレックス・オスターワルダー他著, 小山龍介訳, 「ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書」, 翔泳社, 2012
13. ティム・クラーク他著, 神田昌典訳, 「ビジネスモデルYOU」, 翔泳社, 2012
14. ティム・クラーク、ブルース・ヘイゼン他著, 今津美樹訳, 「ビジネスモデル for Teams」, 翔泳社, 2012
15. 沼上幹, 「組織デザイン」, 日本経済新聞出版, 2004